

370年を経て今も田畑を潤し続ける用水路トンネル

亀田の水穴

みずあな

島根県吉賀町



島根県鹿足郡吉賀町柿木村福川の亀田地区には山をくりぬいた水穴があります。水穴は、土地を潤すためにくり貫かれた灌漑用の用水トンネルのことです。

亀田地区は、清流高津川の支川福川川がそばを流れていますが、川より田畑の方が高いため、山を迂回して2km上流から水を引いていました。しかし、送水中の漏水がひどく、田畑に十分な供給ができず、農民たちは灌漑用水の苦勞が絶えませんでした。そのような時、この地を訪れた伊予の鉦山師羽生太郎左衛門が農民たちの苦勞を聞き、山をくり貫いて亀ヶ谷川から水を引くことを提案します。

羽生は資金を工面するため、津和野の商人青江安左衛門に相談をもちかけたところ、安左衛門はすぐに資金調達を了承してくれたため、山の両側から岩をくり貫く工事が始まりました。正保2年（1645）、水穴は貫通し、以後、亀田地区では水不足に悩むことなく田畑の開墾が広げられました。

亀田の水穴は長さ約95mで、高低差は約10mです。その取り入れ口は約50cm四方、取り出し口は約80cm四方です。この工事は音を頼りに両方から掘られたようで、結合部は1.5mの落差があるうえ、直角に曲がっています。江戸時代初期に行われたトンネル掘削にどれほどの技術が用いられたのか詳らかではありませんが、地元の人々にとっては待ち焦がれた用水であったことは確かです。

人々は、羽生、青江両氏の恩を忘れてはいけないと、二人の死後、墓と祠を建てて、感謝を子孫に伝えています。それは370年を経た今も、水穴が完成した3月18日（旧暦時代は2月18日）には、二人の功績に感謝して全戸で祭りを続けていることから推察できます。なお、柿木村には他に滝穴の切抜き（大野原地区）など数ヶ所の用水路トンネルがありますが、これは亀田の水穴の成功を見て作られたと考えられています。亀田の水穴が地域にとって重要な史跡であることは間違いなく、吉賀町の文化財に指定されています。



亀田の水穴によって開墾された三町歩の田畑

■位置図



亀ヶ谷川からの取り入れ口



亀田の水穴の出口



羽生太郎左衛門・青江安左衛門の恩に感謝し地区の人々は共同墓地に墓を建てて祀っている。